

令和7年度第2回加西市立図書館協議会議事録

日 時 令和8年3月23日（月） 15：00～16：40

場 所 アスティアかさい3階 集会室

出席者 委員9名：笹倉剛、衣笠朋子、橋尾恵美、友藤ゆかり、高瀬由美、

金澤泰子、稲岡ゆかり、吉村靖、鷺尾小百合

教育委員会：菅野教育長、伊藤教育部長 図書館：桜井館長、民輪館長補佐

1 開会（15：00）

2 あいさつ

（1）会長

- ・ドイツでは夏休みに図書館で泊まる行事があり、オーストラリアでは図書館で授業を行うなど、諸外国では図書館をより密接な存在にする取り組みが行われている。
- ・日本では子どもの減少に伴う図書館離れが課題である。
- ・加西市立図書館は業務委託ではなく、市の直営のまま続けて欲しい

（2）教育長

- ・図書館をどのようにしていくかが大きな課題である。
- ・加西市の特徴を活かし誰もが利用したくなるような図書館を目指したい。

3 報告事項（館長補佐）

（1）令和7年度図書館利用状況と蔵書点検結果について

（2）定期休館日について

- ・令和8年4月1日から毎週水曜日を定期休館日とする。

委員：月末の館内整理日が土・日・祝日にあたる場合は開館することだが、その場合、館内整理日はいつになるのか。

事務局：翌平日を館内整理日とさせていただく。配布している「カレンダーのしおり」に館内整理日と水曜日の定期休館日を記載している。館内整理日と定期休館日が続く場合は、事前にホームページなどでお知らせする。

委員：本を借りたら健康ポイントがもらえる事業の参加状況はどうだったのか。この事業は好評なので、引き続き実施してほしい。

事務局：862名の方が参加された。本を読むことは認知症予防になり、図書館に足を運ぶことも軽い運動になる。市民の健康寿命を延ばすことと読書習慣をつけることを目的にした事業である。来年度については未定である。

委員：電子図書館サービスで電子書籍に読み上げ機能があることを紹介されていた。便利な機能である。図書館のWebサービス講座で、電子書籍についても紹介したのか。

事務局：電子書籍の使い方や機能についても紹介した。参加者が少なかったため、対面で丁寧に

説明をした。

事務局：この講座はオンライン募集をしたが、参加者が少なかった。Webサービス講座を開催するにあたり、常時受付、対応する案も出たが、他の業務やシフトの兼ね合いもあり、常時対応は難しい。来年度も実施に向けて講座の進め方を工夫する。

事務局：今でも電子書籍の使い方を教えてほしいと窓口に来られるかたもいる。その場合は対応している。スタッフが少ない場合は対応できないこともある。

委員：今はロボット、AIの時代である。人員不足対策として、ロボットに使い方を説明させる方法もある。人に教えてもらうのは良いのだが、遠慮して聞けない場合もある。相手がロボットだと遠慮しなくても良い。

委員：利用状況について、中高生の利用者がものすごく少ない。部活や受験勉強で大変に忙しい世代である。加西市は図書館と学校図書館のMARCを統一している。県下でも珍しい。せっかくMARCを統一したのだから、何かうまく使えないかと思う。

教育長：図書館で漫画の史記を借りて読み、とても勉強になった。この漫画を高校生の頃に読んでいたら理解が違っていただけののと感じた。今、教育委員会で学校図書館に漫画を入れることを検討している。図書館に受験勉強に役立つ漫画もあることがわかれば利用者が増えるのではないか。学習漫画ではなく、難解な内容をわかりやすく解説した漫画を読めば理解が早いのではないかと思う。

事務局：現在、中学校へは団体貸出をしている。高校へはしていない。年に4回、北条高校の読み聞かせ班が図書館で読み聞かせをしている。来年度は未定だが、何らかの形で連携していきたい。高校生世代の利用が少ない現状について、対策を講じる必要があることは認識している。

委員：団体貸出の本は物語だけでなく、単元に即した調べ学習用の本を用意することも良い。

委員：町の夏休みのラジオ体操では、週に1回、体操のあとにみんなで遊ぶ機会がある。その時に図書館の本の貸出や読み聞かせができれば良いと思う。夏休みに本に親しむ機会をつくり、読書時間を増やす取り組みをしたい。団体貸出登録など、どうしたら実現できるのか。

委員：例えば、NPO法人を立ち上げ、組織として図書館の本を借りるなど方法はあると思う。

委員：閉校した学校図書館に本は残っているのか。

委員：残っている。

委員：夏休みに閉校した学校図書館を利用できたらと思う。人員配置の問題もあるが、せっかく本が残っているのにそれを活用しないのはもったいないことだ。その後の活用は誰が考えるのか。地域にはコミュニティ・スクールがあるが、地域と深くつながっていない。もっと一緒に活動するためにも本が役立つと思う。

先ほど、電子書籍の読み上げ機能の話がでていたが、実際に聞いてみると、機械的な読み方で、ニュアンスが伝わらないこともある。やはり、人の声で読む、聞くというのはとても良い。加西市は読書会のような朗読会がないように思う。1冊の本を読んで、みんなが聞く朗読会、朗読ボランティアがあってもよいと思う

委員：視覚障害者のためのデイジー図書というものがある。視覚障害などの理由で活字の印刷物の読書が困難な方のために制作されたデータである。利用するには、国立国会図書館のデータ利用サービスを使う。

教育長：閉校した学校図書館の夏休み利用は、現実には難しい。閉校した学校図書館の本で必要な分はすべて統合小学校へ集めているので、夏休みは統合小学校を利用してもらうことが現実的だ。閉校した学校図書館の本の活用については、今後の検討課題である。

子どもの読書離れについては深刻な状況だ。小学校6年生ではスマホを半分以上が持っているなど、スマホ利用、SNS利用は低年齢化している。子どもの生活のなかに本を読む習慣がなくなっている。富田小学校では、学校図書館に漫画を入れたが、予想したほど利用がなかった。文科省の調査で、漫画を多く読む子どもほど本を読むことが好きで、読書量も多いという結果が出ている。子どもの読書については教育委員会も頭を悩ませている。学習として読書をするというのも難しい現状だ。

委員：軽読書、漫画から始めて読書に移行することは多い。漫画を多く図書館に入れて、貸出冊数日本一になった図書館もある。難しい内容の本をわかりやすく漫画にしたものもある。例えば、資本論を漫画で読むなど、中高生を読書に引き付ける手段のひとつだ。その場合、漫画の選書基準をしっかりと決める必要がある。

4 協議事項

(1) 図書館アンケート結果の対応について（BGM等）（館長説明）

委員：アステアかさい3階交流プラザでイベントをすることがある。交流プラザから図書館はフロアが続いているので、音が出るイベントをするときは図書館利用者に悪いと思っていた。この図書館は静かなので、3階のスタッフの方に聞きたいことも声をひそめて聞いている。他の利用者も聞きづらいのではないと思う。BGMを流すことに賛成である。

委員：BGMなど音の感じ方は個人差がある。例えば、図書館の中でもブースを区切るというのはどうだろうか。静かなエリア、騒いでもいいエリアに分けたらよい。私は本を探すときは音が気にならないが、本を読んでいると周りの音が気になる。図書館の中で棲み分けができれば良い。

委員：他の図書館であるが、キッズコーナーでは親子で読み聞かせや話をしながら本を選ぶことができ、気兼ねなく過ごせる。その他のコーナーでは、大人が静かに本を読んでいる、静かな空間だ。そのようにブースを区切るのが良いのではないか。一方で、図書館は静かなところだという認識も必要だと思うが、あまり静かすぎても入りにくい。

委員：キッズコーナーでは親子で楽しく本を選んで、話ができる雰囲気が必要だ。BGMについて、それぞれの場所にあった音楽を流すことはできないのか。キッズコーナーは子どもが喜ぶ音楽、雑誌コーナーではヒーリングなど。図書館は静かであるに越したことはないが、BGMが流れていても良い。音があった方が入りやすいと思う。

委員：事務局が気にしているのは、アンケート結果で「BGMが不要」という回答があったことだと思う。近隣の図書館で基本的に音楽が流れているところはない。図書館は静かな空間だという認識でいたので、今回、様々な意見があることがわかった。みなさんの意見を聞くなかで、BGMを流すならキッズコーナーやトイレの入り口など、ブースによって決めたらよいと思った。4階は静粛な空間のまま、3階に取り入れたら良いと思う。

委員：交流プラザで毎月クラシックコンサートを開催している。図書館に音が響いているのが気になっているが、このコンサートは、生の音、楽器に触れる貴重な時間だ。楽しみに来られている方も大勢いる。本の世界に入ってしまうと他の音は気にならないと思うが、BGMの曲の選別は大事である。

委員：BGMはあっても良い。話し声を消すために取って替わった音楽や集中するための音楽もある。どの音楽を流すかは、よく考えなければならない。他の図書館で、ラベンダーの香りがするところもあり、音以外におもしろい取り組みをされている。

図書館の存在は文化や情報の発信基地である、生の音楽も情報である。本に限定しなくても良いと思う

委員：大学図書館では「ラーニング・コモンズ」という学生の自主的な学習を支えるスペースがあり、会話や議論ができ、飲食も出来る空間がある。図書館内で、会話ができるエリアと静かなエリアを明確に分け、利用者が場所を選ぶようにすることも大事である。BGMについては、流すことで喜ぶ利用者が多いと思う。

図書館内でクラシックコンサートを開催して、関連する本を並べて紹介するなどしているところもある。

事務局：いただいた意見をもとにBGMを流す方向で検討する。交流プラザでイベントがあるときは館内にお知らせの掲示をしている。先程、委員の意見で図書館は文化や情報の発信基地であるという言葉があった。これも意識して進めていく。一昨年まで館内でコンサートを開催していた。来年度はコンサートの開催を検討している。

(2) 学校司書に期待すること（教育部長説明）

- ・学校図書館に司書を1名配置

委員：神戸市の学校司書が、子どもが読みたい本などを手帳に記録して、子どもの読書傾向を常に分析している。読みたい本が用意できたら連絡をするなどコミュニケーションも取っている。学校司書が読書活動を担うことで、子どもの読書意欲が活発になることを期待している。

委員：選書について、様々なジャンルの本をたくさん選んでほしい。人によって本の好みがあり、どうしても偏りがちになることが多い。その点を意識して、様々なジャンルの本をたくさん選んで揃えると、子どもが本に興味を持ち、読書活動につながる。

5 その他

- ・子ども読書活動推進計画の策定について等

6 副会長あいさつ

・子どもたちが本を好きになるきっかけをひとつでも増やせるように、多様な意見を取り入れていきたい。

閉会（16：40終了）